



学校だより 2023 Smile 本荘

令和5年度 第47号
令和6年2月21日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

【2月の本荘小】持久走大会がありました。「生き抜く力」を身に付けることができるように。



開会式の様子



低学年のデッドヒート



中学年の力強い走り



高学年の伸びやかな走り

2月16日(金)に持久走大会を開催しました。この1か月、本荘小は研究発表やなわとび大会(日曜参観)、PTAミニバレーなど、なかなかハードなスケジュールだったのですが、その中でも子どもたちはしっかり練習をしていました。先生たちがつくった、日本一周カードも子どもたちの練習の励みとなり、高学年のある子どもは、人が練習しようがしまいが、いつも率先して練習をしていました。中学年の子どもたちはよく走っていましたね。元気に競い合いながら練習する様は、成長を感じることができて大変うれしく思いました。上級生が練習するので、兄弟姉妹関係を中心に低学年の子どもたちも朝から走っていました。

持久走大会の開会の時に子どもたちに話したのですが、走る事が体によいことなんて、世の中の多くの人知っていることです。なのに、なぜみんな走っていないのでしょうか?答えは簡単です。走ることはとてもきつく感じるからです。校長先生も、子どものころはランニングが苦手でした。体育でも、部活の練習でも、その練習があると「あーあ(泣)」と思ったものでした。誰でも同じだと思いますよ。今でも、もう少し走る機会を多くして、きりっとした体つきを維持したいと思うのです(笑)。しかし、走るのがおっくうになったり、「今日はきついな、やめとこかな」と考えたりして、毎日が続いていないことも事実です。(裏面へ)

だからこそ、この持久走が「学び」として大切なのだと思うのです。体力の向上、心肺能力の強化、自分にまけない克己心、この持久走に取り組むことで伸びる面は数多くあるのです。何よりも、苦しいことから逃げない、目をそらさないことってとても大事だと思うのです。

現在は「VUCA」時代だと呼ばれています。「先の予測ができず、どうなるかわからない不確実な時代」なのです。そんな社会において、未来を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることを子どもたちは期待されています。学習指導要領にも明記されているのです。

だからこそ、困難に負けず、常に自分をアップデートしていくことが、求められているのです。子どもたちだけではなく、私たち大人だってそうなのです。私たちは、子どもを優しく、価値ある存在として育てるとともに、生きる力、生き抜くための資質能力を身に付けさせていかなければなりません。一生懸命に走る子どもたちの姿に、これからの未来を感じながら、応援していた校長先生なのでした。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「白梅の 咲き誇るかな 春近し(お粗末 -_-)」

2月も半ばを過ぎました。持久走大会の時に撮った梅です。6年生の子どもたちは、校長先生の行動をよく見ていて、「校長先生は梅の花が好きだよだ 笑」とお話をしていたそうです。梅も桜も好きです。どの花も美しいですよ。冬を耐え、春に向けて咲き誇る花々って、素敵だと思う校長先生です。

